

活動のコンセプト（設立趣旨から）

2003年4月に、食にかかわる専門家を支えるNPO法人 食生態学実践フォーラムは設立されました。これは1970年代はじめに創設した「食生態学」（地域で生活する人々にとって、人間らしい食とは何か、日常生活で実現するためにどうしたらよいかを明らかにする）を基礎に、「栄養・食活動の現場で、わかりやすい、楽しく実践できる教育の目的や方法」を模索しつつ活動していた食生態学実践グループのメンバーたちの熱情とパワーで生まれました。活動の目的は、本リーフレットの表紙に書いてあるとおりです。

目的の実現に向けて、次のコンセプトを重視しています。

- 全ての人に、それぞれの健康や生活の質の向上を重視します。「生活者重視・当事者主体・学習者主体」です。ですから一律の指導でなく、専門性をいかした「支援」です。
- ライフスタイルや環境との関わりを重視します。フードシステムと食情報システムが絡み合う食環境との関わりで、人々は食事づくり・食べる・健康や食を営む力の形成・生きる力の形成・次の生産活動への循環をすすめる、「人々の“生活の質”と“環境の質”のよりよい共生」をめざしているからです。
- 科学的な根拠・実践的な根拠をふまえた支援を重視します。研究結果を実践へ使う方向でなく、食の現場での課題→解決のための研究→現場での検証→これらの結果をいかした栄養・食活動プログラムや教材開発→現場での実践→評価→これらのプロセスを仲間と共有し・ネットワークや人材養成→次の課題の研究……という“実践から研究”の循環です。この代表的な例が「主食・主菜・副菜を組み合わせる」「3・1・2 弁当箱法」による食事法の開発研究・実践・全国展開です。

設立から10年以上を経過した今、国内外で経済格差、健康格差、食格差等の連鎖・拡大・深刻化、震災・豪雨等自然災害の多発と広域化、これらによる人的・文化的・社会的資源の喪失、弱体化等のマイナスの循環が急速にすすんでいます。

設立時にも増して今、食をめぐる課題の多様化がすすむ中、一人ひとりの食を営む力がが必要です。食に関わる専門家を支えるNPO法人 食生態学実践フォーラムの底力発揮が求められています。

「一人でも多くの仲間と活動の輪を広げたい」の願いを込めて
理事長 足立己幸

入会案内

私たちと一緒に活動しませんか？

NPO法人 食生態学実践フォーラムでは、趣旨に賛同してくださる方、一緒に活動してくださる方の入会をお待ちしております！

正会員

この法人の目的に賛同して入会した個人
年額 20,000 円

- 総会における議決権があります。
- 多くの研修会等に無料で参加できます。
- 当法人が開発した教材や資料を、必要に応じて無料で活用することができます。

賛助会員

この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人

年額 5,000 円

学生会員は年額 3,000 円

- 多くの研修会等に無料で参加できます。
- 当法人が開発した教材や資料を、必要に応じて無料で活用することができます。

法人会員

この法人の目的に賛同し賛助するために入会した法人

年額一〇 50,000 円

- 多くの研修会等に無料で参加できます。

お問い合わせ先

NPO法人 食生態学実践フォーラム

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 4-16-10 コーポ小野 202

tel&fax : 03-5925-3780

e-mail : forum0314@angel.ocn.ne.jp

http://shokuseitaigaku.com/



食に関わる専門家を支える

NPO法人

食生態学実践 フォーラム

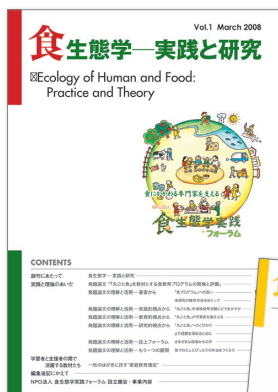


目的

この法人は、日本国内はもとより、世界各地で生活する人々の「食」を支える専門分野の人々や、その活動に対して、食生態学や関連する分野の研究・実践の成果を活用する事業を行い、地球上の子どもから高齢者まで全ての人々が、より健康で、生活の質を高め、更にはそれぞれの立場で、地域性を生かした人間らしい社会形成に貢献することを目的とする。（定款第3条）

NPO法人 食生態学実践フォーラムはこんな活動をしています（事業内容）

食生態学や関連する分野の調査・研究事業



会員の皆さまの実践・研究力の向上をめざし、年に1回、機関誌「食生態学—実践と研究」を配布しています。最新の実践とそれに関わる研究をまとめ、食をめぐる問題について、いろいろな場面で共有できる情報を提供しています。



年1回発行の機関誌
「食生態学—実践と研究」



食生態学や関連する分野に関するプログラム・教材開発事業

会員の皆さまからの実践上のニーズをふまえて、食生態学実践フォーラムの事業を効果的にすすめるためのプログラム・教材開発や技術支援を行っています。食育カレンダーの企画、ライフスタイルに合わせた「3・1・2 弁当箱法」のプログラム開発とリーフレットの制作、弁当箱の開発、「魚」食育普及・啓発事業、被災地や子ども食堂等の食からの相談・支援等を行っています。これらのものは、会員の皆さまの多様な実践の成果をいかしてすすめています。

お問い合わせ先

NPO法人 食生態学実践フォーラム

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-16-10 コーポ小野 202

tel&fax : 03-5925-3780

e-mail : forum0314@angel.ocn.ne.jp http://shokuseitaigaku.com/



「3・1・2 弁当箱法」

「3・1・2 弁当箱法」は、「1食に何をどれだけ食べたらよいか」について、だれでも理解し、実行し、多くの人と共有しやすいように、実践・研究開発された食事（料理の組み合わせ）のものです。



「3・1・2 弁当箱法」のロゴマーク

栄養・食を支える専門家の質を高める研修事業

栄養・食を支える専門家の質を高めるための、さまざまな研修会を各地で行っています。総会研修会をはじめ、食生態食育プロモーター養成講座、食生態学講座、「魚」食育普及・啓発のための研修会、国際協力研修など、会員の皆さまと一緒に課題を共有し、解決に向け考えていく研修会です。



食育セミナー事業

子ども自身が、自分の食事を自分で責任をもって考えてつくること、そしてわかったことを友だちや家族や地域にどんどん伝えていくこと、自分自身のため、家族のために活用できるようになることをめざして、毎年、食育セミナーを行っています。このセミナーは、子どもが食をとおして、「生きる力」の基礎となる「食事づくり」を体験的に学ぶというもの。会員の皆さまは、スタッフとして食育セミナーに参加することができます。



食生態学や関連する分野の情報発信事業

食生態学の実践と研究や関連する分野について、ホームページ、ニュースレター（年3回発行）、機関誌「食生態学—実践と研究」の発行等とおして、会員の皆さまに役立つ最新情報を、わかりやすく提供しています。



ホームページ



ニュースレター